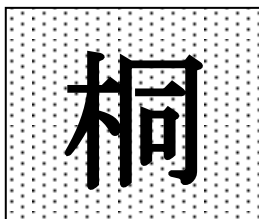


大東文化学園
教職員組合連合機関紙
第 1072 号
2013 年 12 月 25 日発行



E-MAIL:daito-un@boreas.dti.ne.jp
http://www.boreas.dti.ne.jp/daito-un/
p/f (03) 3935-9505

本号の内容

- ◆連合代議員総会報告
- ◆2014 年度連合執行委員選出される
- ◆大学新代議員大募集！
- ◆2013 年度春闘要求書の再要求に対する回答
- ◆新年の集いのお知らせ

◆連合代議員総会報告

大東文化学園教職員組合連合 2013 年度定例総会が 2013 年 12 月 9 日（金）午後 6 時 30 分から大学組合会議室において開催されました。以下、簡単ながら総会の議事について報告します。

開始予定時間の 6 時 30 分を過ぎたため、山口委員長からの開会挨拶の後、議長に今井氏（一高）が選出された。まず、総会成立状況の確認がなされ、出席代議員 6 名、委任状 5 通（出席代議員 1 名につき委任状 1 通を有効とする）を合わせて 11 名となり、総会開催要件の定足数（過半数名）を満たしている旨が書記局より報告された。

総会は今井議長の司会の下、第一号議案（2012/2013 年度活動の報告）の審議に入った。沼口書記次長からの説明ののち、満場一致で第一号議案を承認した。

第二号議案（2012/2013 年度決算報告）は兵頭執行委員が報告し、代議員の全会一致で承認された。

第三号議案（2013/2014 年度活動方針）は山口委員長が報告し、同様に全会一致で承認された。

第四号議案（2013/2014 年度予算）は兵頭執行委員が報告し、代議員に承認された。

第四号議案中の連合費予算については、第五号議案として単組会費を過去の支出の実績に見合った額に引き下げ、過剰な余剰金の発生を抑え、大学教職員組合の赤字改善をはかりたい旨が提案され、これについても承認された。

次いで総会は新役員の選出に移った。執行委員会から新役員候補者が推薦され、総会はその候補者を信任投票により承認した。

新役員選出により総会は予定された議案の審議を終了し、議長が出席者全員の拍手のうちに解任された。最後に池田副委員長よりの挨拶の後、8 時 30 分に閉会となった。

代議員の皆さんのご協力により、無事総会は成功いたしました。議長を務めて下さった今井先生をはじめ、代議員の皆さまに改めて心から感謝申し上げます。

（書記局）



◆2014 年度連合執行委員選出される

2014 年度の連合執行委員が、以下のように選出されました。大東文化学園が直面する諸問題に関して、積極的に取り組んでいく所存です。

皆様のご支援とご協力の程、お願いいたします。

役 職	氏 名	所 属
委員長	山 口 由 二	環境創造
副委員長	山 本 葉 月	一 高
書記長	池 田 祐 輔	一 高
書記次長	小 池 剛 史	文・英米
執行委員	水 谷 正 大	経営・経営
執行委員	内 田 健 二	法・政治
執行委員	白 井 春 人	外・英語
執行委員	大 杉 由 香	環境創造
執行委員	山 中 吾 郎	文・教育
執行委員	内 田 知 行	国関・国関
執行委員	兵 頭 圭 介	スポ健・健康
執行委員	北 澤 恒 人	環境創造
執行委員	篠 永 宣 孝	経済・社経
執行委員	森 稔 樹	法・法律
執行委員	中 村 泰 子	一 高
会計監査	松 尾 敏 充	経営・経営
会計監査	高 沢 修 一	経営・経営

◆大学新代議員大募集！

ただいま、大学組合では 2013/2014 年度新代議員を募集しております。お一人でも多くの代議員をお迎えして広く情報を集約し、多様な考え方・立場のもとに充実した討論を重ねて学園・大学執行部へ核心をついた意見や要求を出すことのできる組合作りを目指しています。組合活動の活性化にお力をお貸しください。

ご連絡は執行委員、組合書記局（内線 4951・メールアドレス daito-un@boreas.dti.ne.jp）まで。お待ちしております。

◆2013 年度春闘要求書の再要求に対する回答

2013 年度春闘要求の未回答部分について 12 月 13 日、以下のように文書での回答がありましたので掲載いたします。

春闘再要求について（回答）

2013. 12. 13

V 教育・研究・労働条件の改善

高校教員

A 専任教員

4 高校校舎の開館、閉館時間について、職場の実態に即して再検討すること。

→セキュリティ対策上（本年 1 月脅迫文事件も踏まえ）、現状が妥当と考えます。また、閉館時間などを延長することにより、慢性的な長時間勤務の温床になる恐れもあり、結果として労働環境の悪化に繋がることも併せて考える必要があります。

質問⇒上記回答の趣旨は理解しますが、行事や入試などの特別な事情が際には配慮いただきたい。また、大学では届け出があれば午後 10 時頃迄入館可能と聞いているが、そうだとすれば高校でできない理由は何なのでしょう？

生徒に対し 7 時下校を指導している以上、現状で妥当との認識です。

VI 学生・生徒の勉学条件の改善

大学

3 特別支援を必要とする学生への支援

特別支援を必要とする学生について、教育的観点から必要最小限の情報を関係する部署で共有する体制を築くこと。また、特別支援についての具体的指針を策定し、キャンパス・バリアフリー化、ノート・テイク雇用、必要とされる研修の実施を含めて具体策を講じること。

→特別支援を希望する学生については、本人の了解を得て学科主任、授業担当教員、関係部署へ情報提供をして連携を図りサポート体制を築いています。

(1) 2013 年 4 月 1 日より学生部から学生支援センターに事務組織の変更がありました（「学生支援センター」→「学生支援センター事務室」→「学生支援課（東松山校舎は東松山学生支援課）」→各学生支援課に「学生相談分室及び障がい学生支援分室」。

この「障がい学生支援分室」という部門で、担当者を決めて障がいをもつ学生の支援を行っています。

具体的には、

①障がい学生支援分室担当者は、各種講習会、情報交換会等へ出席をして、フィードバックしています。

②障がい学生支援部会に諮って、支援体制の強化を図っています。

③新年度に入る前に（3 月下旬実施年度当初ガイダンスあるいは入学式の前）、学生本人（保護者）、関係部署（学生支援センター事務室、東松山教務事務室、学部事務室、各校舎管理課）担当者及び学生所属の学科主任と打合せを行い、支援体制の確認を行っています。

④事前に学部事務室担当者と相談し、教室移動、教室の環境等を考慮して時間割を組んでいます。

⑤学生支援センター所長より全学教員へ配慮依頼文書を発信しています。これに加え、学科主任からも履修科目担当教員宛に配慮依頼文書を発信しています。

⑥予算化し必要に応じて、PC テイク及び手話通訳を外部委託して対応しています。

⑦学生ボランティアによる支援体制を 2013 年度後期より整え、引続き支援を行っています。今年度は 4 月に募集（募集掲示、募集説明会）を行い 24 名（東松山 7 名 + α、板橋 17 名）の申し込みがありました。今後、定期的に学生ボランティアミーティングを行う予定です。また、学生対象に、外部講師を招きノートテイクの講座を開き障がいをもつ学生へのサポート強化に役立てたいと考えています。

・学生ボランティアの主なサポート

1. 教室移動

- 2.授業補助（本の頁めくり、授業準備、書取り補助、簡易なノートテイク）
- 3.トイレ介助（急用時）
- 4.昼食介助
- 5.通学介助（高坂駅⇄東松山校舎、東武練馬（大東文化会館）⇄板橋校舎）
 - (2) 東松山キャンパス整備事業も含め、両校舎ともにバリアフリー化の整備を行っています。
 - (3) 車椅子対応のスクールバスを導入して対応しています。
 - (4) 2011年度東松山の校舎に、車椅子(2台)対応のワゴン車1台を購入しました。

質問⇒サービスの質はどうか？アンケート調査等の結果があるのであれば公表して欲しい。

支援の質に関するアンケート調査は行っておりません。

支援障害学生（板橋2名、東松山2名）とは各校舎の分室にて日常的にコンタクトしており、問題点があれば随時本人、学生サポーターを含む関係者を交えて解決策を模索・実施しています。残念ながら支援障害学生の要望すべてに応えることはできていません。たとえば低床バスの運行ダイヤなどはバス台数と運転手の関係上自在には組み替えられませんし、情報保証も予算的な制限があり全科目にはつけられません。そのような事情を説明したうえで、どうすればよいかを本人と学生サポーターを含んで模索しており、分室ではその過程をサービスではなく学習機会ととらえています。支援障害学生の提案で手話サークル立上の企画が胎動していますが、これは大きな一歩だと考えて支援しています。ご参考までに、各分室での取り組み状況について、10月1日開催の障害学生支援部会に報告した資料を添付します。（資料1-1, 1-2）

高校

1 大学の図書館を一高生にも使用できるようにすること。

→大学図書館を高校生徒に開放する考えは現時点ではありません。館内は手狭で修士・博士論文執筆の大学院生、公務員試験等受験の学部生を優先したいと考えています。

再要求⇒地域住民には開放している事実は、上記説明とどのように整合性がとれるのか。一定の条件のもとに利用させることはできないのか。

大学図書館の担うべき役割に支障のない範囲で、一高生に対して利用開放が可能なのか、可能であるとすればどのような方法があるのか、研究・検討が必要であると考えています。

Ⅶ 施設・設備の改善

共通部分

1 防災・減災性能が高く環境に配慮したキャンパスの構築：

危機管理体制構築の一環として防災・減災体制を整備すること。

- (1) 学園のすべての施設・設備（教室、図書館、研究室、食堂など）について、防災・減災性能の現況と必要とされる対応策を公表すること。

→板橋校舎において、教室については、一部を除いて殆どの教室が椅子・机が可動式（「大学1」指摘事項）なため、地震により変則的に移動する可能性があります。図書館の書架については転倒防止性能があります。昨年までに、研究室、事務室はすべて書架転倒防止工事を実施しましたが、研究室によっては書籍が山積みになって落下する可能性があります。食堂については、テーブル・椅子等で避難経路を閉鎖しないよう指導を行っています。また、毎年度1回は防災管理点検資格者及び消防署の指導を受けながら、防災・減災の対策を行っています。2013年度板橋校舎において、4月25日～26日の2日間で教室、研究室、事務室等の書架の転倒防止等、防災管理点検実施済みです。

東松山校舎において、教室については、新4号館教室、新5号館コミュニティルームの椅子・机が可動式（「大学1」指摘事項）なため、地震により変則的に移動する可能性があります。また、教室等の天井材は落下による事故を防止するため、吸音材（繊維素材）を天井材として使用しています。昨年までに、図書館閲覧室の書架、研究室、事務室はすべて転倒防止工事を実施しました。食堂については、テーブル・椅子等で避難経路を閉鎖しないよう指導を行っています。東松山キャンパス整備事業第2期工事で完成した新4号館、新5号館は比企広域消防本部の指導を受け運用を行っています。さらに、既存建物も法令により年2回（夏季休暇中・春季休暇中）の消防設備点検を実施し、不具合箇所の修繕を実施しています。

質問⇒(1)については、「学園のすべての施設・設備について」の要求なので、高校及び幼稚園についての回答もいただきたい。(2)、(5)について、高校についての回答もいただきたい。(6)について、整備状況の想定の詳細(想定人数、想定日数など)をお答えいただきたい。また、校舎別の内訳(板橋、東松山、高校、幼稚園)もお答えいただきたい。

(1) について

[高校]: 書架等の転倒防止については、工事実施に向けて対応中です。[幼稚園]: 園舎は2011年3月末に竣工しました。書棚等の非構造物は転倒防止対策済みです。

(2) (5) について

[高校]: 教頭が中心となって作業を進める予定です。[幼稚園]: 新園舎に対応した「防災のしおり」に改定する予定です。避難訓練については月に1回、火災、地震、不審者を想定して実施しています。特に大震災を想定した保護者参加の避難訓練を5月に実施しました。

(6) について

整備状況の想定は以下の通りです。[大学]: 想定人数は2,000人、想定日数は2日半です。※なお、毎年備蓄品を追加する予定です。[高校]: 想定人数は全生徒+教職員数、想定日数は3日です。[幼稚園]: 想定人数は全生徒+教職員数、想定日数は1日です。

校舎別内訳については資料を添付します。(資料2)

(2) 災害時に特に危険な箇所を示すハザードマップの作成および避難方法を含む避難マニュアルを早急に改訂した上でマニュアルに沿った恒常的な避難訓練を実施すること。

→板橋校舎では、日ごろからの防災に対する意識向上を目指すため、防災マニュアルを作成し、各教室、事務室、研究室等に配布済みです。また災害時に特にハザードポイントとして「防災マニュアル」の中で示しており、学内で確認しています。また、避難経路・場所については各教室に既に掲示をしています。

消防法の改正により、自衛消防隊組織(事務職員全員)が義務づけられ、災害時に活動します。自衛消防隊の役割として、「通報・初期消火・避難誘導・応急救護・安全防護」があり、消防車が到着するまでの間、災害を最小限に抑えることを目的としています。

2013年度も昨年に引き続き、板橋校舎においては、6月14日に学生・教職員・一般外来者を対象とした総合避難訓練(地震・火災を想定した訓練)を実施予定です。なお、4月19日(金)に大型消火器の取扱い説明及び訓練を実施しました。さらに、11月は水消火器を使った部分訓練を予定しています。

東松山校舎では、整備事業進捗中であり、避難動線の変更等が予想されるため、防災マニュアルは未作成となっています。なお、現在の避難経路・場所については各教室に既に掲示をしています。

2013年度は、東松山校舎においては、新5号館(スクールバス乗降場所等)を中心とした部分訓練(地震・火災を想定した訓練)を実施予定です。併せて、AEDの取扱い、水消火器を使った訓練を比企広域消防本部と調整のうえ予定いたします。

再要求⇒避難マニュアルの大幅な改善や避難路、誘導のためのサインマークの設置、誘導灯等の設置なども含めて総合的に検討して早急の実施して頂きたい。

避難マニュアルの大幅な改善について

板橋校舎では、日頃ごろからの防災に対する意識向上を目指すため、防災マニュアルを作成し、各教室、事務室、研究室等に配布済みです。現在ある「防災マニュアル」は作成時、消防署で指導を受けて作成したものであり、公益財団法人東京防災救急協会に一部の記載事項について許可された内容を載せております。しかしながら、毎年、授業中での大規模な総合訓練を行っておりますが、事故を最小限に防ぐためにも、次年度、予算計上し、防災マニュアル作成専門業者のアドバイスを受けながら、よりよい防災マニュアルを検討いたします。

避難路、誘導のためのサインマークの設置、誘導灯等の設置について

板橋校舎、東板橋校舎の避難路、誘導のためのサインマークの設置、誘導灯等の設置については、建築基準法及び消防法に基づき設置しています。建築物については、必ず消防署の検査を受け、許可が必要です。毎年、消防法令点検を実施し、老朽及び不具合が生じた器具については修繕、交換等を行っています。また、消防検査結果については定期報告書を消防署に提出しているため、現状のままで特に問題はありません。

(6) 校舎内退避に備えた備蓄用品(水、食料、毛布、ヘルメットや手袋、救急用品など)の整備及び体制整備を行うこと。(最低3日分=東京都提案)

→昨年度、水、食料、水不要トイレを追加購入し、現在の整備状況は以下のとおりとなっております。

- 水・・・・・・・・・・・・・・・・42,749 本(学園全体)
 - 食料(カロリーメイト)・・・・16,070 個(学園全体)
 - 食料(五目ごはん)・・・・7,500 食(学園全体)
 - 食料(ミニクラッカー)・・・・7,764 缶(学園全体)
 - 食料(ようかん)・・・・7,500 個(学園全体)
 - 防寒・保温シート・・・・11,200 枚(学園全体)
 - ヘルメット・・・・・・・・300 個(学園全体)
 - ワンタッチトイレ・・・・10 (学園全体)
 - 水不要トイレ(汚物処理袋) 24,000 枚(学園全体)等
- なお、今年度も水、食料については追加する予定です。

再要求⇒保管場所および担当者などの管理体制はどのようになっているのか(東松山および板橋)? また、一高の分はどのようになっているのか? さらに、付近の住民の避難も考慮に入れてあるのだろうか? 一体、何人分の食料なのか地域別に明らかにし、また担当者(管理体制)も明示して欲しい。複数の管理責任体制になっているものと思うが、責任者がいないため(他に出ていたため)保存食糧を提供することができなかったということが無いように願いたい。

大学

備蓄の管理は管理課(板橋校舎)、東松山管理課(東松山校舎)が行っています。管理場所は東門備蓄倉庫・体育館厚生棟2階(板橋校舎)、9号館3階倉庫(東松山校舎)です。管理体制は災害対策本部長が中心となります。鍵の管理は管理棟(板橋校舎)東松山事務部・東松山管理課(東松山校舎)が行っています。課員不在時(夜間等)については、警備にそれぞれの倉庫の鍵を貸与して居るため開閉は可能です。

板橋区の近隣住民については、原則、本学園での提供はいたしません。但し、板橋区より依頼があれば、提供いたします(板橋区との協定による)。近隣住民は近隣の公立小学校及び中学校での提供となっております。

高校

備蓄水等の保管場所は地下機械室です。管理体制は教頭を中心とし、一高事務室で鍵の管理を行っています。不在時には警備に鍵を貸与しているため開閉は可能です。

幼稚園

備蓄水等の保管場所は階段地下倉庫です。管理体制は職員室・事務室で鍵を管理しています。

大学

3 両キャンパスにおいて、各教室から警備室、教務事務室または学部事務室への緊急連絡を可能にする電話を設置すること。

→関係部署と協議の上、検討します。

質問⇒いつまでに何をどこと協議し検討するのか?そしてそれを明らかにするのか?

教務事務室・学務事務室への必ずしも緊急とは言えない問い合わせの増加等を考慮しなければなりません。現段階では設置しない方向で考えています。

以上

資料 1-1

平成 25 年 10 月 1 日

障がいのある学生に対する支援状況 (板橋校舎)

学生支援課 障がい学生支援分室

1. 支援障害学生 (平成 25 年 10 月 1 日現在 2 名)

	所 属	障 害	備 考
A	文学部日本文学科 3 年 (女子)	肢体不自由	電動車イス
B	文学部書道学科 3 年 (女子)	聴覚障害	後期の情報保障は教職科目 7 コマ利用中 (うち 1 コマは学生ボランティアによるピアサポート)

2. 支援体制 (平成 25 年 10 月 1 日現在)

	名 称	構 成	備 考
学内	障がい学生支援分室 (コーディネイター含む)	2 名	調整窓口 ※10/1 付けで 1 名はキャリアセンターへ出向
	学生ボランティア	20 名	文 13, 外 1, 法 4, 営 1, 環 1
学外	PC 文字通訳者会「ユビキタス」	18 名	6 コマ分
	ボランティア	不明	本人 (A) が手配している

3. 予算執行状況 (前期分) (平成 25 年 10 月 1 日現在)

内 容	執行額	備 考
学生ボランティア謝礼	50,100 円	A
教室用机	17,010 円	A
PC テイク支払手数料その他	646,037 円	B
テイカー養成講習会	398,420 円	聴覚障害学生支援体制構築
前期支出計	1,111,567 円	

4. 支援状況

- ・ 2/15、支援引き継ぎ打ち合わせ (A 本人、保護者、学科主任、ゼミ担当教員、学内関係部署)
- ・ 3/7、支援引き継ぎ打ち合わせ (B 本人、学科主任 (=ゼミ担当)、学内関係部署)
※ここで B の時間割を検討し、科目担当者へは聴覚障害学生が履修することの確認を行った。
- ・ 3 月中、管理課による設備改修 (1 号館入口及び 2・3 階自動ドア設置、1 階多機能トイレ)
- ・ B の申請 (学科主任承認) に基づき、学生支援課にて情報保障の手配を行った。
- ・ 4 月上、履修登録への配慮依頼 (学生支援課から文学部事務室へ)
- ・ 4/3、本人を含む関係者による情報共有のためにメーリングリスト運用開始 (支援障害者毎)
- ・ 4/5、全学の教員へ宛てて所長名の配慮依頼文書発信
- ・ 4/6~12、初回授業の前に、各担当教員へ配慮依頼を行った (学生支援課 + 文学部事務室)。
- ・ 4/9、B への PC テイク開始 (2 コマ)。PC テイクスタッフの図書館利用登録を完了した。
- ・ 4/13、B の申請により PC テイク 1 コマ追加決定 (学長起案決裁)、4/19 より計 3 コマとなる。

- ・ 4/15、教室割り当ての配慮依頼（学生支援課から学部事務室共通業務班へ）
※Aが電動車イスで3号館教室を利用する場合は、4台（12人分）の机を教室外へ搬出するため、履修人数よりも10名以上大きめの教室を手配する。
 - ・ 4/24、学生ボランティア募集説明会開催（昼休み、多目的ホール）
 - ・ 5/2、学生ボランティア初回ミーティング（14名出席、昼休み、多目的ホール）
※障がい学生支援分室が窓口となるが、学生ボランティアの個別調整はAB本人とボランティア学生間で行う。ABは月締めで報告書を障がい学生支援分室へ提出し、有償分についてはアルバイト料としてボランティア学生の口座へ振り込む。
※Aから金2前期及び土3前期のPC教室授業への支援要請あり。学生ボランティアにより、翌週より手当済み。
Bから金2通年、火4後期、木3後期および土1後期への情報保障要請あり。金2は科目担当教員へ学生支援課より配慮依頼、後期科目分の支援は検討事項とする（テイカー養成講習を企画）。
 - ・ 6/初旬、Bの申請によりPCテイク1コマ追加決定（学長起案決裁）、6/17より計4コマとなる。
 - ・ 6/25、学生ボランティア中間ミーティング実施
 - ・ 7/22、学生ボランティア前期振り返りミーティング実施
 - ・ 7/26、テイカー養成講習会内容について関東聴覚障害学生サポートセンターと打ち合わせ。
 - ・ 7/31、弱視学生と分室スタッフで板橋校舎内を点検し、危険箇所リストを管理部へ提出した。
 - ・ 9/5,6、テイカー養成講習会を板橋校舎で開催（受講者9名）した。講習会のPCテイクには早稲田大学の学生スタッフ3名が参加した。
- ※前期分の有償ボランティアについて、アルバイト料での受け取りを希望した3名には口座振り込みを行い、その他の6名にはアルバイト料相当の図書カードを手渡した。
- ・ 9/17、後期開始。
Aへの支援は、後期科目の様子を見ながら行う。
Bへの情報保障は計7コマ、うち1コマはテイカー養成講習を受講した本学学部生による初めてのノートテイク/PCテイクである。
 - ・ 9/17、学生ボランティア後期スタートアップミーティング実施。
※障がい学生支援分室が窓口となり、AB本人とボランティア学生のコーディネートを行う。有償分については月締めでアルバイト料としてボランティア学生の口座へ振り込む。アルバイト料を希望しない者には謝礼として図書カードを渡す。
 - ・ 9/24、Bより手話サークル立ち上げの相談あり。近日中に早稲田大学の手話サークルを見学する予定。

5. 取組予定

- ・ 学生ボランティア体制の構築（養成講習等開催、手話サークル支援、全学共通科目「聴覚障害ボランティアAB」の再開など）
- ・ 車イス学生対応の高さ調節機能を持つ机の手配
- ・ 低床の学バス台数を増やす（現在1台）
- ・ 災害時の階段避難用器具の手配（例：EvacChair）
- ・ 視覚障害学生のための対応の研究

以上

資料 1 - 2

平成 25 年 10 月 1 日

障がいのある学生に対する支援状況 (東松山校舎)

東松山学生支援課 障がい学生支援分室

1. 支援障害学生 (平成 25 年 10 月 1 日現在 2 名)

	所 属	障 害	備 考
A	文学部教育学科 2 年 (男子)	肢体不自由	電動車イス
B	スポーツ健康科学部スポーツ科学科 4 年 (男子)	聴覚障害	PC テイク後期 4 コマ 手話通訳後期 1 コマ

2. 支援体制 (平成 25 年 5 月 9 日現在)

	名 称	構 成	備 考
学内	障がい学生支援分室	2 名	調整窓口
	学生ボランティア	9 名+α	教育 7、スポーツ科 2
学外	PC 文字通訳者会「ユビキタス」	1 2 名	4 コマ分
	東松山市総合福祉エリア(ヘルパー)	1 名	本人と契約

3. 予算執行予定 (後期分) (平成 25 年 10 月 1 日現在)

内 容	執行額	備 考
PC テイク・手話通訳支払手数料	1,653,000 円	B
後期支出予定計	1,653,000 円	

支援状況

- ・ 5/22、A の時間割を基にボランティア学生と担当について打合せ
- ・ 5/29、A の時間割ごとの担当決定。担当表の提出あり。
- ・ A は、授業の空き時間に、障がい学生支援室にて自主勉強。
- ・ 9/17 より、A 及び B を初めて担当される教員に文書持参のうえ挨拶開始。

※障がい学生支援分室が窓口となるが、学生ボランティアの個別調整は A 本人とボランティア学生間で行う。A は月締めで報告書を障がい学生支援分室へ提出し、有償分についてはアルバイト料としてボランティア学生の口座へ振り込む。

以上

2013.3現在

資料2

品名	板橋	東松山	信濃町	会館	徳丸	高校	幼稚園	合計	備考
備蓄水						9,500		9500	
備蓄水<賞味期限2014.3>	240							240	
備蓄水<賞味期限2018.3>	13,840	17,000	360	720	360		720	33,000	
食料品(カレーメイト)	6,780	8,100	180	300	60	350	300	16,070	
食料品(五目ごはん)	3,340	4,000	50	50	10		50	7,500	
食料品(ミクラー)	3,604	4,000	50	50	10		50	7,764	
食料品(ようかん)	3,340	4,000	50	50	10		50	7,500	
生理用品						14,400		14,400	
生理用品(22/s)	445	500	20	20	5		10	1,000	
防寒・保温シート	4,760	5,000	80	100	10	1,200	50	11,200	
携帯用拡声器	7	11		1		6		25	※会館は地域連携センター事務室所有
照明器具(灯光器等)	9	6					30	45	
トランシーバー	44	12						56	
手袋(軍手等)			12					12	
警笛		20						20	
消火器	222	135	11	24	8	56		456	
防水シート								0	
ラジオ	1	1		1				3	※会館は地域連携センター事務室所有
救急医薬品	○	○	○	○		○	○	0	
ヘルメット		272	7	5	2	11	3	300	自衛消防隊用
担架	7	9		1		3		20	
ストレッチャー	1							1	
スクープ担架				1				1	
携帯型不織布担架(キャリアフ)	5							5	
AED(自動体外式除細動器)	7	8	1	1		2	1	20	
車椅子	1	10		1		1		13	
介護用椅子						7		7	
救助工具セット	2	1						3	
ワンタッチトイレ	10							10	
水不要トイレ(汚物処理袋)	1,400	1,600						3,000	
水不要トイレ(汚物処理袋)<2012追加>	7,000	16,000	300	300	100		300	24,000	

2013.3現在

品名	板橋	東松山	信濃町	会館	徳丸	高校	幼稚園	合計	備考
パーソナルテント(個室テント)	5							5	
テント	1	3						4	
防煙シート	20							20	

◆連合旗開きのお知らせ

2014年新年の集い(連合旗びらき)開催!

恒例となりました「大東文化学園教職員組合連合主催『2014新年の集い』」を下記の通り開催いたします。
新春のお忙しい中とは存じますが是非お集まり頂き、新春のお祝いをしたいと思っております。
皆さまのお越しをお待ちしております。

今回は講談師 **神田 山吹** 様をお迎えして、

文学部・宮瀧交二先生作：「**漢和大辞典物語**」の公演を予定しています！
新春のひとつ、大東文化大学ならではの貴重な講談を体験してみませんか？
組合員でなくても参加できますので皆様で是非おいでください！



プロフィール

1月25日生まれ(水瓶座) 埼玉県さいたま市出身
現在も埼玉県さいたま市在住
芸歴 平成6年 8月 友人に連れられて行った寄席で講談を知り、約一ヶ月半寄席に通いつめる。
9月 新宿永谷ホールへ故二代目神田山陽師を 訪ねる。
11月 二代目神田山陽に入門、芸名エリ
平成7年 1月 見習から前座になる
平成11年5月 二つ目昇進、芸名を山吹に改名
平成12年10月 山陽師匠が亡くなる(享年91歳)
平成13年 1月 総領弟子神田松鯉師匠門下へ
平成18年 9月 真打昇進



活動内容：黒門町本牧亭 お江戸日本橋亭 お江戸広小路亭 お江戸両国亭 新宿亭 池袋演芸場 浅草園芸ホール 浅草東洋館 木馬亭などの都内の寄席を 中心に全国各地で公演しています

日時:2014年1月20日(月)午後6:30~
場所:生協カフェテリア(板橋校舎1号館地下1階)

組合員の皆様歓迎!
非組合員の皆様也大歓迎です!



組合書記局の年内の活動はこの情宣をもちまして終了となります。
新年は1月6日(月)からの始業です。
みなさま、どうぞよいお年をお迎えください。



本紙は大学組合 web サイト <http://www.boreas.dti.ne.jp/daito-un/> にも掲載しています。
併せてご利用いただければ幸いです。

本紙へのご投稿、ご意見、ご質問は daito-un@boreas.dti.ne.jp にお寄せください。